

PC サステナビリティ宣言

PC 工学会は、PC 構造物を取りまく、社会性・環境性・経済性の、
3 側面に着目しそのバランスに配慮した活動を通じて
サステナビリティ社会を目指します。



宣言
1

『安全・安心に関する活動』

社会の安全・安心を構築し維持していくため、プレストレストコンクリート技術を活用し、良質な構造物の建設と維持管理に努める。

人々が安心して暮らせるために、自然災害に強く高耐久な構造物である PC 構造物の展開を推進するとともに、維持管理技術の高度化に努めます。

宣言
2

『社会のニーズに対する活動』

社会のニーズに対応した構造物の創造に向けてプレストレストコンクリート技術の開発に努める。

今後の社会ニーズ変化に必要となる PC 技術の開発に努め、構造物の計画段階から設計、施工、維持管理、および更新の段階を見据え、変化する社会情勢に柔軟に対応できる構造物の創造を推進します。

宣言
3

『環境負荷低減に関する活動』

構造物のライフサイクルにわたり、環境負荷低減に努める。

設計や施工、維持管理に加え、解体後までを対象とし、あらゆる場面での環境負荷低減に努めます。また、自然エネルギーを活用するプロジェクトなど、環境負荷低減につながる活動へ積極的に関与することも推進します。

宣言
4

『3 側面のバランスに配慮した活動』

3 側面の評価の見える化を推進し、バランスに配慮した評価に努める。

構造物のライフサイクルを通じた環境性、社会性、経済性を評価する項目の見える化を推進します。

● 宣言文の詳細は URL をご覧ください → <http://www.jpcci.or.jp/download/pc-sustainability-20170526.pdf>

サステナビリティ社会に向けて 《本宣言の必要性》

- ◆人類は生活を豊かにするため、技術開発や社会基盤整備を活発に進めてきた。
- ◆資源の枯渇化や廃棄物などの環境問題、人口増加にともなう食料・エネルギー不足など社会問題、貧富差の拡大といった経済問題が顕在化し、「経済性」のみならず「環境問題」や「社会問題」も配慮することの重要性が認識されるようになる。
- ◆20世紀終わり頃から、「将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす」サステナビリティ活動が地球規模で活発となる。
(サステナビリティ活動には「環境性」「社会性」「経済性」の3側面に配慮することが必須)
- ◆土木・建築分野では、資源消費などによる環境問題、経済停滞による建設投資の低下、未曾有の災害経験による強靱な社会基盤施設の必要性、建設技術者の減少といった課題に直面している。
- ◆2012年に日本コンクリート学会(JCI)からコンクリートサステナビリティ宣言が発信される。
⇒PC技術を扱う立場から、具体的なサステナビリティ活動に関する考えを社会に示すことは必要不可欠。

プレストレストコンクリート技術の足跡 《社会ニーズに応えてきたPC技術》

- ◆1940年頃にはじまった日本におけるPC技術の歴史、1960年頃からのPC技術の普及・発展。
- ◆急速施工の要請に応えるかたちで、プレキャストの活用や大型架設機材の開発。さらなる軽量化・長大化のための施工方法や材料の開発。
- ◆1990年代以降の土木分野では、コスト縮減・合理化・高耐久化の要請に応え、プレキャストセグメント工法や複合構造といった合理的な技術が登場。
- ◆2000年代以降の建築分野では、大型構造物に対するプレキャストPC造採用の増加に加え、免震構造とPC構造の組合せや薄肉部材への適用など意匠部材への採用も増える。
⇒これまでも、PC技術は社会ニーズに応えてきました。

これからは、将来世代により良い「環境性」「社会性」「経済性」を受け渡すことに貢献するため、

**PC工学会は 環境・社会・経済の3側面の
バランスに配慮した宣言を発信します。**

PCサステナビリティ活動を継続するために

《本宣言の継続に必要な活動》

1. 活動に貢献するため、プレストレストコンクリート技術の継承と発展に努める。
2. 活動を理解する人材の確保と育成に努める。
3. PDCAサイクルを構築し、宣言活動の見直しに努める。
4. プレストレストコンクリート技術の魅力とサステナビリティ活動を社会へアピールすることに努める。